

### 【人材育成】2018年度 連続自治体特別企画セミナー全6回開催報告

2018年度のKIRPセミナーは、「新たな社会変革を活用する地域社会のゆえ」を共通テーマに全6回開催し、370名(延べ)の参加がありました。毎回のセミナーでは、資源のシェアリング(共有)やIoTの活用による課題の解決、ひとりひとりの多様性を活かした職場環境づくり、都市と農村の人の交わりによる新たな価値創造など、日本各地で起こっている先駆的な事例を紹介しました。その根底にあったのはソーシャルイノベーションという発想です。「ありたい社会の未来像」を描き、その実現に向けて、自治体に限らず、社会のさまざまな担い手が連携して、暮らしやすい社会を「みんな」で創造していくプロセスでもあります。大きく変容している地域社会で、担い手同士の対話や相互の触発によってソーシャルイノベーションを促すための考え方やアプローチを学ぶ機会となりました。(文責：鈴木コーディネーター)



テーマ	講師	参加者数
第1回 「障がい者施設・シェアリングは地域をどう変えていくか」	シェーマツカ、アンディヤク (京都大学 学術政策研究センター 学術政策) 安藤良輔 (公益社団法人国土交通研究センター) 岡田好子 (NPO法人「笑顔の見えるまちづくり」 京都府立大学) コーディネーター：徳山公三 (総務マネージャー)	42名
第2回 「デジタル技術への未来をつくる新しい組織モデル」	藤村雅州 (東京工業大学大学院リーダーシップ教育院特任准教授) 若原浩志 (株) ヒューマンフォーラム代表取締役社長) コーディネーター：梅原豊 (公共政策学部教授)	71名
第3回 「多様な人材が力を発揮するインクルーシブな職場環境をつくる」	近藤弘夫 (京都大学先端科学技術研究センター人間支援工学分野教授) 渡辺典 (株式会社エンカレッジ代表取締役) 土井善子 (有限会社気運部代表取締役会長、合同会社全労代表役員) コーディネーター：野田雅弘 (公共政策学部教授)	50名
第4回 「公共政策学部特別講座 町事対話 “対話を担う子どもたち”が未来を創る “物作”を創る」 (付録)	加山直也 (京都府立大学学長特別室、元総務大臣) 野田雅弘 (公共政策学部教授)	112名
第5回 「都市と農村の関係を再構築～移住・交流・関係人～」	藤井一典 (京都大学地域学都市学地理学情報学コース教授) 藤村雅州 (東京工業大学大学院リーダーシップ教育院特任准教授) 田中健英 (ローカルジャーナリスト) 小林悠夢 (京都市京都市地域おこし協力隊) コーディネーター：上杉和史 (公共政策学部教授)	66名
第6回 「地域社会の未来」	高橋和 (NPO法人イノベーション) プラットフォームファウンデーション(COOP)代表取締役) 水野隆夫 (京都府立大学若狭分校センター(仮称)若狭分校センター所長) 北村広美 (多文化共生センターひょうご代表) コーディネーター：徳山公三 (センターコーディネーター)	27名

※総務課

### 【生涯学習】桜楓講座のご案内

6月8日(土) 10:00~12:00 申込〆切6/7

「よるず作ります ~化学を使って役に立つものを作る~」  
**生命環境科学研究科 教授 橋 一典**

化学は新しい化合物を作り出すことができる学問です。私たちは有機合成化学の手法を用いて、新しい反応を開発したり、新しい物質(まだ誰も合成したことがない化合物)を作り出したり、有用天然物の全合成などの研究を行っています。本講座では、pH指示薬として一般的 なフェノールフタレイン(酸性で無色、アルカリ性で紫色)を土台として用い、さまざまな細工を施した化合物のお話をします。

会場：京都府立大学 稲森記念会館103 ※詳細・お申込は別途ホームページに掲載します。

6月29日(土) 10:00~12:00 申込〆切6/28

「『方丈記』を読んで日本語の歴史を考える」  
**文学部 准教授 鳴海 伸一**

「方丈記」は著名な古典ですが、部分部分の解釈については、これまでに明確に解決されていないものや、結論が割れているものもあります。文学的なアプローチだけでなく、日本語の歴史という観点からの考察によって、新たな解釈を提示することはできないでしょうか。あるいは、本文を解釈する作業をすることによって、そこから、ことばの変化について考えることもできるように思われます。本講座では、「賞罰はなはだし」という表現の解釈を通じて、日本語(ことば)の歴史(変化)、特に語の意味変化について考えてみたいと思います。

産学連携リエゾンオフィス産学連携コーディネータ 木村 浩

### リエゾンオフィスからのお知らせ

4月1日より産学官コーディネータに着任しました木村です。大学は理学部の天然有機化学専攻、京都のユニチカと積水化学の研究部門では機能性高分子材料の開発と農業や医療を含む実用化に従事、その後、大阪大学・京都高度技術研究所・関西大学で共同研究と競争的資金獲得の支援に実績を上げて来ました。お気軽にお声がけいただければご相談に伺いますので、どうぞよろしくお願いいたします。



### KIRPについて

京都地域未来創造センター(KIRP)は、京都府立大学の「知」を活かし、地域の未来を創るための拠点として発足した地域に向けた総合窓口です。協働研究、受託研究等に関するご質問、ご相談があればお気軽にお問い合わせください。

Tel : 075-703-5390  
 Fax : 075-703-4979  
 mail : kirpinfo@kpu.ac.jp  
 HP : <http://www.kpu.ac.jp/>

〒606-8522  
 京都市左京区下鴨半木町1-5  
 稲盛記念会館 1階



Kyoto Institute for Regional Prospects

# NEWS LETTER



京都地域未来創造センター設立3年目がスタートしました!

### ■新副センター長



桂 明宏 公共政策学部教授

この度、京都地域未来創造センターの副センター長をさせて頂くことになりました。私の専門は農業経済学、食料・農業・農村政策ですが、最近では京都市中北部の過疎・高齢化に悩む農村で懸命に地域活動を行っておられる団体の支援をすることが多くなりました。このセンターを通じて少しでも地域活性化のお手伝いができるよう、微力ながら頑張っていきたいと考えております。どうぞよろしく申し上げます。

### ■新副統括マネージャー



川勝 健志 公共政策学部教授

昨年度まで学部教員を代表する連携推進員として、京都地域未来創造センターの運営に関わっていましたが、今年度から副統括マネージャーを兼任させて頂くことになりました。価値創造的な仕事をするには、職場仲間との日常的なコミュニケーションと多様な人的ネットワークが欠かせません。センターのコアスタッフに最も身近な教員として、良き相談・調整役になれればと思っています。

### 【KIRP】2019年度 京都地域未来創造センター新体制

役職等	氏名	
センター長	宮藤 久士	学部長・生命環境科学研究科教授
副センター長	橋 一典	立命館大学准教授
統括マネージャー	徳山 公三	名誉教授(公共政策学部)
副統括マネージャー	川勝 健志	公共政策学部教授
	青地 裕永	文学部教授
	川勝 健志	公共政策学部教授
	徳山 公三	生命環境科学研究科教授
	山本 隆	生命環境科学研究科教授
	加藤 孝	立命館大学准教授
連携推進員(学内選出)		
シニアスタフ(産学連携)		
企画調整	全席調整マネージャー	徳山 公三
	コーディネーター/企画調整	徳山 公三
	研究員	永田 恵子
	研究員	橋本 さやか
	所長	宮藤 久士
	精華サテライトオフィス長	宮藤 久士
	学部長	橋 一典
	コーディネーター(産学連携)	立川 上治
	コーディネーター(産学連携)	木村 浩
	コーディネーター(産学連携)	上田 真
	産学連携(産学連携)	太田 謙大
	特任教授	徳山 公三
	客員教授	小沢 博司
	客員教授	長瀬 洋一
	課長	山本 隆
	副課長	浅野 大樹
	主事	下田 綾

## 【受託研究】2018年度受託調査報告

京都地域未来創造センターが外部から受託した調査研究を以下の通り報告します。

### ■京都経済同友会委託「京都府北部地域における観光人材育成方策調査」（2年間）

本調査は、京都経済同友会の5つある委員会のうち、北部委員会の調査の一つとして実施されました。京都府立大学は、京都経済同友会と2017年に包括連携協定を結びました。この調査は、その包括連携協定の手始めに始められたものです。この調査を実施して重要なことに気づかされました。近年、観光誘致計画は各地で花盛りですが、それを受け入れる人材の確保と育成が具体的に考えられていないのです。宿泊施設に聞けば、最盛期の稼ぎ時に、部屋が50室あっても、人手が不足しているために30室分の客しか受け入れられなかったり、観光バスの会社で、バスはあっても運転手がいらないという状況が、すでに慢性的に発生しているとのことでした。こうした調査分析結果を提示しつつ、提言では、宿泊施設の経営改革や、人材の確保・育成戦略を提言しました。（文責：青山統括マネージャー）

京都府北部地域の求人倍率（2017年1月～12月平均）  
（出典：「北部地域」所の職業安定業務統計より）

業種	実需	求職者 ポット
官公庁関係	2.80	0.46
専門的・技術的職業	2.75	1.67
事務的職業	0.45	0.41
販売的職業	2.04	2.85
サービスの職業	2.39	2.97
（住宅・福祉の職業）	2.77	5.89
農林の職業	4.76	1.81
厚労系の職業	1.85	1.19
工業工程の職業	1.31	1.41
輸送・機械運転の職業	1.48	1.42
建設・設計の職業	4.8	2.85
運輸・清掃等の職業	0.32	0.68
IT関連	1.65	3.81
福祉関連	2.65	2.02

### ■宇治市委託「宇治市・西小倉地域における市民との協働型まちづくりに関する基礎データ作成業務」



調査報告会の様子

この業務は、京都府立大学が実施しますACTRによる調査・研究「宇治市・西小倉地域（近鉄小倉駅周辺）における市民との協働型まちづくりのあり方検討」が採択されたことに連動して委託された、いわばマッチング委託による業務です。ACTRの調査も含めて紹介します。この調査は、まずは今回のテーマである密集市街地の現状把握をすることから始めました。約6,700戸の建物について、用途、空き家、構造、家の前に置かれているフラワーポットの数などの他、駐車場、公園などの状況を調べ、それを地理情報システム（GIS）によってマップ化しました。そして、マップ化した状況と、国勢調査の高齢化率、人口密度などのデータとを組み合わせ、小倉地区の現状を把握しました。次のステップで、それらのデータを地区に住む市民の皆さんに報告をし、併せてワークショップを実施し、市民の皆さんから、地区の評価、今後の課題などについて意見を聞きました。密集市街地対策の先進地である東京都の荒川区、品川区などの調査も実施し、多くの教訓を得ました。次年度も継続して調査したいと考えています。（文責：青山統括マネージャー）

## 【ACTR】2018年 ACTR調査報告

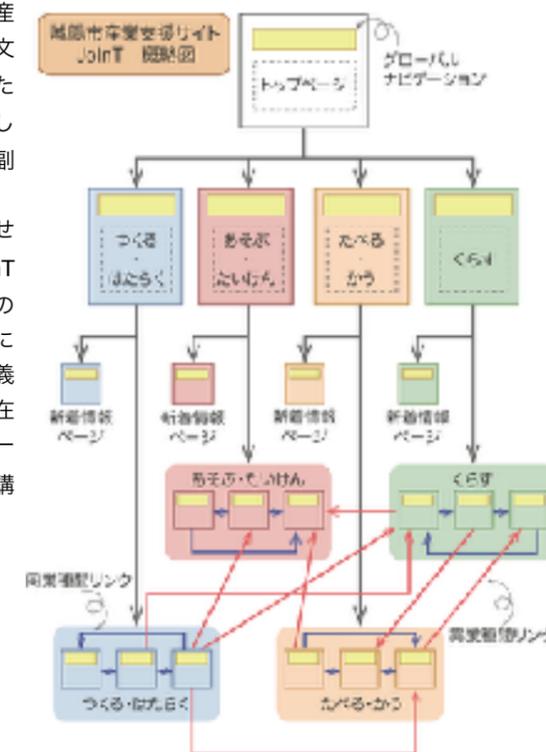
■「産業関連情報の総合的集約とそれを用いた地域産業情報支援および情報発信産業支援サイトのあり方と活用方策」当センターが関わった研究を報告します。

関西最大級の大規模開発が着々と進行中の城陽市。ACTR研究『産業関連情報の総合的集約とそれを用いた地域産業情報支援および情報発信産業支援サイトのあり方と活用方策』は、そんな城陽市の地域産業界を文理融合型研究で支援しようというものです。2018年度の研究活動で得られた成果を城陽市に報告するため、3月28日(木)に研究報告会を開催しました。市議会開催中の大変忙しい時期にもかかわらず、奥田市長、今西副市長をはじめ、まちづくりの中核を担う方々にご参加いただきました。

研究報告会の前半では、企業に対するヒアリング結果と照らし合わせながら、研究代表者と研究協力者の新庄氏が城陽市産業支援サイトJoinTの設計思想について解説しました。後半では、岩村氏と竹内氏が現状の分析結果を報告し、今後の政策提言を行いました。当初の予定を大幅に超過するほどたくさんの質問やコメントをいただき、実りのある有意義な研究報告会となりました。[新庄氏は研究代表者の研究室出身で現在は同志社大学理工学部助教。岩村氏と竹内氏は青山KIRP統括マネージャーが担当するPBL型(Project Based Learning)大学院授業の受講生。]（文責：生命環境科学研究科 岩崎准教授）



ACTR研究成果報告会の様子



Webページの概略図

### COC+だより

#### ～丹後日帰り穴場旅～「COC+ チームたんてつ」がモデルコースを提案!

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）の学生たちが「北部PBL」として、WILLER TRAINS（株）で実習を重ね、「丹後日帰り穴場旅」というモデルコースの提案を行いました。

「北部PBL(Project Based Learning)」とは、京都のローカル経済を支える人材を育てることを目的に、実習受け入れ先が希望するテーマで地域ビジネスの提案をするプログラムで、今回は「丹鉄と丹後の魅力を知ってほしい～おすすめモデルコース」の提案というテーマをいただきました。

歴史学科3回生の4名が自主的に参加し、WILLER TRAINSの担当者とのwebミーティングを何度も重ね、現地調査として数日間滞在し楽しく意欲的に取り組みました。

提案の内容は、観光パンフにあまり載っていない「由良地区」に焦点を当て、北前船の歴史や安寿と厨子王の史跡、酒蔵の景観などをストーリーとして取り上げたり、天橋立でも一般的にはあまり知られていない「桜山展望台からの眺め」を紹介しました。

学生たちは皆、2回生の時に演習で丹後・宮津に訪れたことがあり、現地滞在中もゲストハウス「ハチハウス」さんや宮津のまちなかのみなさんが温かく見守ってくださいました。

WILLER TRAINSのご担当者からは、『ネットの情報などでいくらでもモデルコースは作成できますが、今回の実習では、実際に足を運び発見したことをモデルコースという形で、いかに人に伝えるかということを取り組んでいただきました。「丹後由良」という小さな町にスポットを当て、「穴場旅」としてその良さをうまくまとめていただいていたと感じています』とコメントをいただきました。

みなさんもぜひ一度、このコースを訪れてみてください。（文責：奥谷特任教授）



内容はCOC+のホームページ又はフェイスブックをごらんください



## 【ACTR】ACTR成果報告会

### 【地域貢献型特別研究（ACTR）成果報告会in舞鶴】を開催しました。

文学部歴史学科では、2013年度から、舞鶴地域の文化遺産の調査に関わっています。こうした成果の報告の場として、3月2日(土)舞鶴市政記念館において、「舞鶴地域の地域連携、世代間交流と文化遺産活用」を開催し、68名の参加がありました。

当日は、築山学長の挨拶に始まり、東准教授が中心になって進めている、府内で最も古い現存幼稚園である舞鶴幼稚園が所蔵する資料についての報告、歴史学科の教員が策定に関わった「舞鶴市歴史文化基本構想」の概要、東舞鶴高校の教員と歴史学科の学生による高大連携「東舞鶴高校での探求型授業（古文書とフィールドワーク）」の報告、「舞鶴市地方史研究会」の活動の報告、多門院地区での歴史探訪の報告、収蔵資料がユネスコ世界記憶遺産に登録された舞鶴引揚記念館の地域連携の報告など、多様な関係者からの文化遺産の活用についての報告がありました。

報告会の最後には、上杉准教授より、こうした豊富な文化遺産を次世代に継承していくためには、地域にある多様な資源の「価値」に気づくための仕掛けや外部の目の必要性などが提起され、盛況のうちに終了しました。（文責：鈴木コーディネーター）



報告会の様子